

[掲載紙] 上毛新聞「点描ぐんま経済 日銀支店長 見聞録」

[掲載日] 2017年4月28日

[テーマ] ニューヨークへ異動—焼きまんじゅうに愛着—

とうとうやってきてしまった。異動の発令。

転勤族の宿命としていつかは群馬を離れなくてはならないことは分かっている。でも、そのタイミングがいつか分からないものだから、まだもう少し動かないだろうと、勝手に考えてしまう。上司から久しぶりに電話がかかってきて異動の話が出た時に、うかつなことに、「冗談ですよ？」と問い返してしまった。

そういえば、3年前にニューヨークに単身赴任していた時にも、上司からの電話により家族のもとに戻れると勘違いしてしまったことがあった。私の専門の一つは経済予測であるが、自分のことに関する予測は本当にダメダメだ。

そのような私が唯一、この日に備えてやってきたことがある。それは、焼きまんじゅうを週1本以上食べること。

群馬に引っ越してきて初めて、市内にある焼きまんじゅうで全国的に有名なお店に行った時、駐車場に品川ナンバーのスポーツカーが止まっていることに気付いた。なかなか見ることができない高級な外車であったので、無意識にそちらに目がいったのであるが、車の中では、品の良い格好をした私と同じくらいの年齢の女性が一人で焼きまんじゅうを頬張っていたので、余計に驚いた。

私の想像力は膨らんだ。おそらく焼きまんじゅうを食べに高速道路を飛ばしてきたのだろう。群馬出身の人で、仕事かなんかで忙しい中、小さい頃に食べた焼きまんじゅうがふいに食べたくなって、やってきたのに違いない。

そこで疑問に思ったのが、私と同じ世代の群馬の方々は、生まれてから焼きまんじゅうを何本くらい食べているのだろうかということ。500本か。1000本か。いや、最近では昔ほど食べないといっても、それ以上だろう。追い付くのは無理としても、近付きたい。食べ続けることにより、転勤でどこかに行っても、ふいに焼きまんじゅうが食べたくなれば、とてもすてきなことだ。

取りあえず100本を目標とした。支店長の平均在任期間2年で割って、週に1本。こ

れだったらできる。以来、家族とともに県内各地の焼きまんじゅうを食べ続けてきた。群馬で生まれた次男はまだ2歳になっていないが、焼きまんじゅうが好物となった。群馬生まれなんだから、そうでなくては困ってしまう。

1年11カ月の在任期間を経て、おそらく110本くらいは食べただろう。みそばんも含めれば、130くらいか。これだけ食べれば、たぶん一生、焼きまんじゅうのとりこだ。山に囲まれた風景から離れても、決して忘れることはない。

群馬県民の皆さま、本当にありがとうございました。家族ともどもさまざまな場でいろいろとお世話になり、感謝の念に堪えません。加えて、私のこんな乱文にもお付き合いいただき、ただただ申し訳ない限りです。再びニューヨークに行くことになりましたが（ただし今度は家族とともに）、帰国したら真っ先に群馬に遊びに来ますので、引き続きよろしくをお願いします。

日本銀行米州統括役
神山 一成